

作物名：水稲

病害虫名：墨黒穂病（病原：*Tilletia barclayana*）



発病籾

1 被害の特徴と診断のポイント

登熟後期の穂に発生する。玄米内部に形成された黒穂胞子(厚膜胞子)が、籾の外穎を破ってあふれ出て、墨をこぼしたように穂を黒く汚す。

発病籾では、黒色～褐色の着色粒、くず米となる。発生が多いと、籾すり調製時に玄米果皮が破れて黒穂胞子が大量に飛散し、健全な玄米の表面まで黒く汚染されることがある。

発病籾率は多くても5%程度で、減収より玄米の品質低下の被害が大きい。

2 伝染源及び伝染方法

厚壁胞子が種籾に付着して越年する。出芽時に幼芽へ侵入し、菌糸はイネの生長点付近で生長しながらイネの生育とともに上昇し、穂に達し、籾を侵す。

3 発病・伝染好適条件

- ・ 出穂期前に降雨日が多いと発生が多くなる傾向がみられるが、気象要因の詳細は不明。
- ・ 発生に地域性があり、一度多発すると数年続けて発生する傾向がある。

4 防除方法

(1) 化学的防除

前年に多発したほ場では、薬剤防除を実施する。

(2) その他

被害粒が着色粒やくず米として混入することがあるので、篩目は1.9mm程度を使用して丁寧に選別する。また、発生が多いと健全粒まで黒く汚染されることがあるので、籾すり時は玄米表面に傷をつけないようにロール幅に注意する。

5 その他（県内での発生推移等）

県内では、昭和61～62年、平成14～15年に多発した。それ以前にも発生が確認されていたが、その発生は突発的であった。発生生態の詳細は不明であるが、多発の前々年や前年に発生がやや多い傾向が認められている。

6 出典

- (1) 参考文献...日本植物病害大事典（全国農村教育協会）
原色病害虫診断防除編1（農文協）
- (2) 写真...宮城県病害虫防除所撮影